



【写真 78】北側外壁状況



【写真 79】西側外壁状況

#### (5) 建具

建具は比較的良好な状態であった。

### 3-5. 西蔵の破損状況

#### (1) 軒内・土間

コンクリート土間表面に乾燥収縮による割れがみられた【写真 80】。出入口への石段に経年変化による表面剥離・風食がみられた【写真 81】。



【写真 80】土間状況



【写真 81】石段状況

#### (2) 基礎

機械測量による基礎石レベルでの不陸測定を行った。【調査図面番号 3・床不陸図 (2) 参照】。全体的に南東側に沈下しており、最大で 11 mm であった。

切石を積んだ礎石は全体的に経年変化による風食がみられた【写真 82】。特に北東隅の礎石は風食が大きかった【写真 83】。北東隅は庇がなく雨水が直接あたる環境だからであろう。



【写真 82】礎石状況



【写真 83】北東隅礎石状況

### (3) 軸部

出入口塗戸の開閉が不可能であったため、内部の調査に及ばなかった。

### (4) 屋根

棟積に不陸・通りの乱れ、平葺に葺き乱れがみられた【写真 84】【写真 85】。何れも経年変化によるものと推測される。



【写真 84】西流れ状況



【写真 85】棟通り状況

### (5) 壁

外壁の漆喰部分は、全体的に経年変化および雨水による上塗りの剥落・割れがみられた【写真 86】【写真 87】。外部南側は板壁であったが、雨水による腐食が大きかった。

漆喰塗戸の開閉が不可能であったため、内部の調査に及ばなかった。



【写真 86】北側状況



【写真 87】西側状況

#### (6) 建具

出入口の塗戸は経年変化により開閉が不可能であった【写真 88】。この経年変化とは塗戸の自重で上部の肘坪が歪み、建具同士が召し合せ部分で密着し動かなくなることによるものである。窓の鉄扉は格子とも錆が大きかった【写真 89】。



【写真 88】塗戸状況



【写真 89】鉄扉状況

### 3-6. 納屋の破損状況

#### (1) 軒内・土間

軒内および「水場」の土間コンクリートに乾燥収縮による割れがみられた【写真 90】。「南室」の叩きに経年変化による割れ・表面剥離がみられた【写真 91】。





【写真 90】軒内状況



【写真 91】土間状況

## (2) 基礎

機械測量による土台レベルでの不陸測定を行い、土台の不陸＝礎石の不陸と仮定して判断した【調査図面番号4・床不陸図(3)参照】。室内に備品が多いため、主として西側での計測となり最大値は44mmであった。

外部北側および東側の地盤に落ち葉等の堆積物が多く、また西側軒内土間が高いため礎石に覆いかぶさっている状態であった【写真92】【写真93】。



【写真 92】東側状況



【写真 93】西側状況

## (3) 軸部

室内に備品が多く床の腐朽箇所が多いため、測定は西側通りのみとなった。柱の傾斜を内法高さ5.8尺(1,757mm)で計測したところ、全体的に時計回りに傾斜しており、最大寸法は20mmであった【調査図面番号7・柱傾斜図(3)参照】。

土台には地面の湿気による蒸れ腐れが生じており、小屋組み材には雨漏りによる腐朽がみられた【写真94】【写真95】【写真96】。「北室」の床板は蒸れ腐れにより弛緩していた【写真97】。



【写真 94】土台状況



【写真 95】「北室」小屋組状況



【写真 96】「南室」小屋組状況



【写真 97】床状況

#### (4) 屋根

瓦屋根には棟積に不陸・通りの乱れ、平葺に葺き乱れがみられた【写真 98】。「水場」の波型鉄板には錆びがみられた【写真 99】。何れも経年変化によるものと推測される。



【写真 98】西流れ状況



【写真 99】同左

#### (5) 壁

外部北側および東側は波型鉄板で覆われていた【写真 100】。壁の剥落を防ぐための応急処置であると思われる。また外部南側には壁板が張られているが下部に湿



気による蒸れ腐れがみられた【写真 101】。外部西側には建物の歪みによる貫位置での割れ・塵切れがみられた【写真 102】。

内部では建物の歪みによる剥落・割れ、雨漏りによる雨染みがみられた【写真 103】。



【写真 100】北側状況



【写真 101】南側状況



【写真 102】西側状況



【写真 103】内壁状況

## (6) 建具

出入口の格子戸には蟻害および腰板の欠損がみられた【写真 104】【写真 105】。また敷鉄・戸車に錆が大きく、開閉が困難な状態であった。施錠装置が欠失していた。



【写真 104】格子戸正面



【写真 105】格子戸背面

### 3-7. 便所・風呂棟の破損状況

#### (1) 軒内・土間

礎石を支える石積廻りの土が雨水により削られていた【写真106】【写真107】。



【写真106】西側



【写真107】南側

#### (2) 基礎

機械測量による床レベルでの不陸測定を行い、床の不陸＝礎石の不陸と仮定して判断した【調査図面番号3・床不陸図(2)参照】。全体的に10mm前後の沈下で比較的良好な状態ではあるが、西側通りに最大で35mmの沈下がみられた。礎石を支える石積廻りの土が雨水により削られたことが原因と推測される。

#### (3) 軸部

柱の傾斜を内法高さ5.8尺(1,757mm)で計測したところ、全体的に5mm以下の傾斜であり、比較的健全であることが確認された【調査図面番号6・柱傾斜図(2)参照】。

「便所」北西隅柱の柱脚に蟻害がみられた【写真108】。「南廊下(東)」および「便所」の天井板に雨漏りによる雨染みがみられた【写真109】。



【写真108】「便所」北西隅柱脚



【写真109】「南廊下(東)」天井



#### (4) 屋根

軒瓦・隅棟雁振瓦に割れ・欠損がみられた【写真 110】【写真 111】。平葺き部分には経年変化による葺き乱れがあり、割れた瓦下には鉄板が差し込まれていた【写真 112】。銅板は腐食が進行していた【写真 113】。何れも経年変化によるものと推測される。瓦の割れは人が乗ったことによるものと推測される。



【写真 110】 軒瓦の割れ



【写真 111】 雁振りの欠損



【写真 112】 平葺の葺き乱れ



【写真 113】 銅板の腐食

#### (5) 壁

「便所」北側の外壁に上塗りの剥落・剥離がみられた【写真 114】【写真 115】。内壁は全体的に貫位置の割れ・上塗りの剥離がみられた【写真 116】【写真 117】。



【写真 114】 上塗り剥落



【写真 115】 上塗り剥離





【写真 116】上塗り剥離



【写真 117】貫位置での割れ

#### (6) 建具

開閉に困難な部分はあるが、全体的に健全な状態であった。

### 3-8. 奥座敷の破損状況

#### (1) 軒内・土間

経年変化による叩きの風食・葛石の乱れがみられた【写真 118】【写真 119】。



【写真 118】叩きの風食



【写真 119】葛石の乱れ

#### (2) 基礎

機械測量による床レベルでの不陸測定を行い、床の不陸＝礎石の不陸と仮定して判断した【調査図面番号 3・床不陸図(2)参照】。全体的に 25 mm 前後の沈下であるので煉瓦造の暗渠は比較的良好な状態であろうと推測される【写真 120】。北西の「物置」で最大 52 mm の沈下がみられた。地盤としては安定している状態であると推測される。

「中廊下(南)」の西端の礎石に経年変化による表面剥離がみられた【写真 121】。



【写真 120】暗渠状況



【写真 121】「中廊下 (南)」西橋礎石

### (3) 軸部

柱の傾斜を内法高さ 5.8 尺 (1,757 mm) で計測したところ、全体的に 10 mm 以下で僅かに南西側へ傾斜している状態であった【調査図面番号 6・柱傾斜図 (2) 参照】。

「物置」および「中廊下 (南)」の柱脚部に蟻害がみられた【写真 122】【写真 123】。

「縁 (南・西)」および「中廊下 (南)」の軒先に雨腐れがみられた【写真 124】【写真 125】。

床下の犬垣が欠失していた【写真 126】【写真 127】。「中廊下」の天井に雨染み・竿縁の折損がみられた【写真 128】【写真 129】。また「中廊下 (北)」の北端では天井からの雨漏りにより床板に雨腐れが生じていた。



【写真 122】「物置」柱脚蟻害



【写真 123】「中廊下 (南)」柱脚蟻害



【写真 124】「縁 (西)」軒先雨腐れ



【写真 125】「中廊下 (南)」軒先雨腐れ





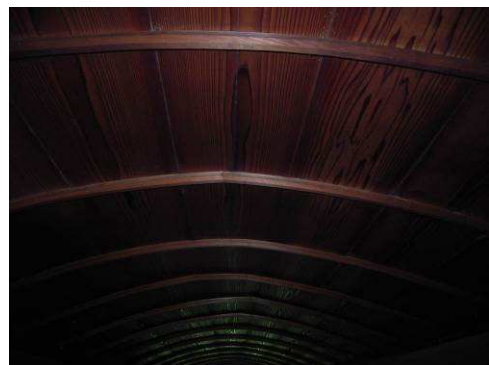
【写真 126】犬垣欠失



【写真 127】同左



【写真 128】天井雨染み



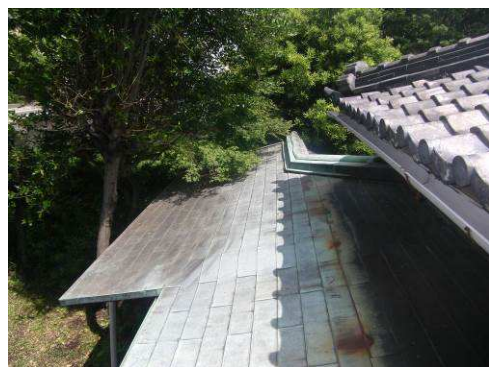
【写真 129】竿縁折損

#### (4) 屋根

軒瓦・隅棟雁振瓦に割れ・欠損がみられた。平葺き部分には経年変化による葺き乱れがあり、割れた瓦下には鉄板が差し込まれていた【写真 130】。銅板は腐食が進行していた【写真 131】。



【写真 130】北流れ状況



【写真 131】下屋銅板状況

#### (5) 壁

外壁では上塗りの剥落・剥離がみられた。内壁では塵割れ・貫位置での割れ・雨染み・汚損がみられた【写真 132】。何れも経年変化および雨漏りによるものと推

測される【写真 133】。



【写真 132】上塗り剥落・剥離



【写真 133】塵割れ

#### (6) 建具

ガラスの割れ・障子紙の破れや汚損がみられたが、比較的健全な状態であった。

### 3-9. 二階屋の破損状況

#### (1) 基礎

機械測量による床レベルでの不陸測定を行い、床の不陸＝礎石の不陸と仮定して判断した【調査図面番号3・床不陸図(2)参照】。全体的に15mm前後の沈下であるので、安定している状態であろうと推測される。北東の「階段」で最大24mmの沈下がみられた。

#### (2) 軸部

柱の傾斜を内法高さ5.8尺(1,757mm)で計測したところ、全体的に10mm以下で僅かに南西側へ傾斜している状態であった【調査図面番号6・柱傾斜図(2)参照】。

一階「階段」東側の窓敷居に弛緩がみられた【写真 134】。「中廊下」の天井に雨染み・竿縁の折損がみられた【写真 135】。二階の「座敷」・「六畳間」・「縁」の天井に雨染みおよび雨漏りがみられた【写真 136】【写真 137】。





【写真 134】窓敷居弛緩



【写真 135】竿縁折損



【写真 136】天井雨染み



【写真 137】雨漏り

### (3) 屋根

全体的に銅板の腐食が進行しており、雨樋が外れていた。鬼・隅鬼が欠失・欠落していた【写真 138】。主屋との取合い部の雨仕舞が悪く、雨漏りしやすい状態であった【写真 139】。



【写真 138】銅板状況



【写真 139】取合い状況

### (4) 壁

外壁には波型鉄板張りで錆が大きかった【写真 140】【写真 141】。鉄板は雨水から外壁を保護する目的で張られているものと推測される。

内壁には塵割れ・剥離・汚損などがみられ、特に「階段」および「板間」の剥落が大きかった【写真 142】【写真 143】。経年変化および雨水によるものと推測される。



【写真 140】 東側状況



【写真 141】 北側状況



【写真 142】 「階段」壁状況



【写真 143】 「板間」上塗り剥落

#### (5) 建具

経年変化による引手金物の欠失、ガラスの割れ、戸板の割れ、障子紙の汚損・破れなどがみられた【写真 144】【写真 145】。



【写真 144】 引手金物の欠失



【写真 145】 腰板の割れ



### 3-10. 中門・仕切塀の破損状況

#### (1) 軒内・土間

敷石は良好な状態であった。

#### (2) 基礎

機械測量による基礎石レベルでの不陸測定を行った。【調査図面番号2・床不陸図(1)参照】。全体的に北側に沈下しており、最大で27mmであった。

礎石に経年変化による風食がみられ、腰板の防腐剤が礎石に付着していた【写真146】。礎石への防腐剤付着は塗装時の養生不足によるものと推測される。控柱の礎石が欠失していた【写真147】。



【写真146】防腐剤付着



【写真147】控柱礎石欠失

#### (3) 軸部

柱の傾斜を内法高さ5.8尺(1,757mm)で計測したところ、「中門」は東側に最大で20mm、「仕切塀」は西側へ最大で9mm傾斜している状態であった【調査図面番号5・柱傾斜図(1)参照】。

「中門」は柱の傾斜以外は、比較的健全な状態であった【写真148】。「仕切塀」は腰板に経年変化による割れ・雨腐れがみられた【写真149】。



【写真148】「中門」東側



【写真149】「仕切塀」腰板

#### (4) 屋根

面戸の剥落、熨斗瓦の欠落、墨巴の割れがみられた【写真 150】【写真 151】。



【写真 150】面戸剥落



【写真 151】熨斗外れ

#### (5) 壁

経年変化や歪みによる塵切れ・塵割れ・上塗り剥離・汚損などがみられた【写真 152】【写真 153】。



【写真 152】上塗り剥離



【写真 153】汚損

#### (6) 建具

戸板の割れや太鼓鉾の欠失がみられ、建付けも良くなかった。

### 3-11. 北蔵の破損状況

#### (1) 軒内・土間

軒内コンクリート土間表面に乾燥収縮による割れがみられた【写真 154】【写真 155】。





【写真 154】軒内土間状況



【写真 155】堀石垣状況

## (2) 基礎

機械測量による床レベルでの不陸測定を行い、床の不陸＝礎石の不陸と仮定して判断した【調査図面番号4・床不陸図(3)参照】。全体的に北側に沈下している状態で最大31mmであった。堀の石垣の状態が懸念される【写真155】。

礎石に経年変化による風食がみられた。

## (3) 軸部

柱の傾斜を内法高さ5.8尺(1,757mm)で計測したところ、全体的に6mm以下の傾斜で僅かではあるが北側に傾斜している状態であった【調査図面番号7・柱傾斜図(3)参照】。

一階の床板は蒸れ腐れによるものと思われる弛緩がみられた。壁面の板張りは比較的健全な状態であった【写真156】。階段は蟻害が大きく登れない状態であった【写真157】。



【写真 156】内部状況



【写真 157】階段状況

## (4) 屋根

棟積・隅棟および平葺き部分には経年変化による葺き乱れがみられた【写真158】  
【写真159】。